

受付日：平成18年6月12日
受付番号：HP06-KT032

接合部金物試験証明書

試験結果は、本報告のとおりであることを証明する。
平成18年9月6日

東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービルディング26階
ハウスプラス住宅保証株式会社



試験体名称	N-フリーダム筋かいプレートL/筋かい90×90
試験依頼者及び住所	名称:株式会社 カナイ 住所:〒340-0833 埼玉県八潮市西袋717-1
試験の目的及び内容	1. 目的 「平成12年告示第1460号第1号」に相当する耐力を確認するために実施する。 2. 試験内容 筋かい端部の仕口面内せん断試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は「木造軸組工法住宅の許容応力度設計 (財)日本住宅・木材技術センター 平成17年3月3版発行」による。 3. 試験体 (試験体の詳細については別紙に示す) 1) 金物 N-フリーダム筋かいプレートL/筋かい90×90 材質:NFG550F(微細粒熱延鋼板) 寸法:97.6×110×46.6mm、t=1.6mm 表面処理:Ep-Fe/Zn 5(JIS H 8610) 筋かい側木ねじ:スクリービス 6本 材質:SWCH18A(JIS G 3507-2) 寸法:φ6.0×43mm 表面処理:ダクロタイズド処理 柱側木ねじ:3#角ビット鋼スクリー 6本 材質:SWRCH22A(JIS G 3507) 寸法:φ6.0×60mm 表面処理:電気亜鉛めっき コーティング 2) 材料 梁:105×180×1490mm ベイマツ 柱:105×105×2587.5mm スギ 間柱:45×105×2587.5mm スギ 土台:105×105×1490mm スギ 筋かい:90×90mm ベイツガ
試験結果	基準せん断耐力 3.73kN/m (詳細については3/29ページ以降に示す)
試験実施日	平成18年6月16日、22日、23日
報告書作成者及び試験実施担当者	ハウスプラス住宅保証株式会社 評定部 山本 広 電源開発株式会社 技術開発センター 茅ヶ崎研究所 研究員 中山 一孝 試験員 尾上 裕介、森 大彦、鈴木 香澄

この接合部金物試験証明書を転載するときは、必ず全文を記載してください。

該当する耐力表

試験結果より	平成12年建設省告示1460号第1号		必要引張耐力 (kN)
	(イ)	径9mm以上の鉄筋 柱又は横架材を貫通した鉄筋を三角座金を介してナット締めとしたもの又は当該鉄筋に止め付けた鋼板添え板に柱及び横架材に対して長さ9mmの太め鉄丸くぎ(日本工業規格A5508(くぎ)-1992のうち鉄丸くぎに適合するもの又はこれと同等以上の品質を有するものをいう。以下同じ)を8本打ち付けたもの	—
	(ロ)	厚さ1.5cm以上で幅9cm以上の木材 柱及び横架材を欠き込み、柱及び横架材に対してそれぞれ長さ6.5cmの鉄丸くぎ(日本工業規格A5508(くぎ)-1992のうち鉄丸くぎに適合するもの又はこれと同等以上の品質を有するものをいう。以下同じ)を5本平打ちしたもの	—
	(ハ)	厚さ3cm以上で幅9cm以上の木材 厚さ1.6mmの鋼板添え板を、筋かいに対して径12mmのボルト(日本工業規格B1180(六角ボルト)-1994のうち強度区分4.6に適合するもの又はこれと同等以上の品質を有するものをいう。以下同じ)を締め及び長さ6.5cmの太め鉄丸くぎを3本平打ち、柱に対して長さ6.5cmの太め鉄丸くぎを3本平打ち、横架材に対して長さ6.5cmの太め鉄丸くぎを4本平打ちとしたもの	1.96
	(ニ)	厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材 厚さ2.3mm以上の鋼板添え板を、筋かいに対して径12mmのボルト締め及び長さ50mm、径4.5mmのスクリークぎ7本平打ち、柱及び横架材に対してそれぞれ長さ50mm、径4.5mmのスクリークぎ5本の平打ちとしたもの	2.94
○	(ホ)	厚さ9cm以上で幅9cm以上の木材 柱又は横架材に径12mmのボルトを用いた一面せん断接合としたもの	1.96

※「平成12年建設省告示1460号」及び「改正建築基準法の構造関係規定の技術的背景 平成13年3月30日 第1版第1刷発行(発行 株式会社ぎょうせい)」、「2001年度版 建築物の構造関係技術基準解説書 平成18年4月1日 第2版第3刷発行(発行 工学図書株式会社)」より

受付日：平成18年6月12日
受付番号：HP06-KT033

接合部金物試験証明書

試験結果は、本報告のとおりであることを証明する。
平成18年9月6日

東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービルディング26階
ハウスプラス住宅保証株式会社



試験体名称	N-フリーダム筋かいプレートL/筋かい90×90(合板仕様)
試験依頼者及び住所	名称:株式会社 カナイ 住所:〒340-0833 埼玉県八潮市西袋717-1
試験の目的及び内容	1. 目的 「平成12年告示第1460号第1号」に相当する耐力を確認するために実施する。 2. 試験内容 筋かい端部の仕口面内せん断試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は「木造軸組工法住宅の許容応力度設計((財)日本住宅・木材技術センター 平成17年3月3版発行)」による。 3. 試験体 (試験体の詳細については別紙に示す) 1) 金物 N-フリーダム筋かいプレートL/筋かい90×90(合板仕様) 材質:NFG550F(微細粒熱延鋼板) 寸法:97.6×110×46.6mm、t = 1.6mm 表面処理:Ep-Fe/Zn 5(JIS H 8610) 筋かい側木ねじ:スクリービス 6本 材質:SWCH18A(JIS G 3507-2) 寸法:φ 6.0×43mm 表面処理:ダクロタイズド処理 柱側木ねじ:3#角ビット鍋スクリー 6本 材質:SWRCH22A(JIS G 3507) 寸法:φ 6.0×60mm 表面処理:電気亜鉛めっき コーティング 2) 材料 梁:105×180×1490mm ベイマツ 柱:105×105×2587.5mm スギ 間柱:45×105×2587.5mm スギ 土台:105×105×1490mm スギ 筋かい:90×90mm ベイツガ 合板:105×380mm 厚さ30mm 構造用合板JAS特類2級
試験結果	基準せん断耐力 3.15kN/m (詳細については3/29ページ以降に示す)
試験実施日	平成18年6月16日、23日、26日
報告書作成者及び試験実施担当者	ハウスプラス住宅保証株式会社 評定部 山本 広 電源開発株式会社 技術開発センター 茅ヶ崎研究所 研究員 中山 一孝 試験員 尾上 裕介、森 大彦、鈴木 香澄

この接合部金物試験証明書を転載するときは、必ず全文を記載してください。

該当する耐力表

試験結果より	平成12年建設省告示1460号第1号		必要引張耐力 (kN)
	(イ)	径9mm以上の鉄筋 柱又は横架材を貫通した鉄筋を三角座金を介してナット締めとしたもの又は当該鉄筋に止め付けた鋼板添え板に柱及び横架材に対して長さ9mmの太め鉄丸くぎ(日本工業規格A5508(くぎ)-1992のうち鉄丸くぎに適合するもの又はこれと同等以上の品質を有するものをいう。以下同じ)を8本打ち付けたもの	—
	(ロ)	厚さ1.5cm以上で幅9cm以上の木材 柱及び横架材を欠き込み、柱及び横架材に対してそれぞれ長さ6.5cmの鉄丸くぎ(日本工業規格A5508(くぎ)-1992のうち鉄丸くぎに適合するもの又はこれと同等以上の品質を有するものをいう。以下同じ)を5本平打ちしたもの	—
	(ハ)	厚さ3cm以上で幅9cm以上の木材 厚さ1.6mmの鋼板添え板を、筋かいに対して径12mmのボルト(日本工業規格B1180(六角ボルト)-1994のうち強度区分4.6に適合するもの又はこれと同等以上の品質を有するものをいう。以下同じ)を締め及び長さ6.5cmの太め鉄丸くぎを3本平打ち、柱に対して長さ6.5cmの太め鉄丸くぎを3本平打ち、横架材に対して長さ6.5cmの太め鉄丸くぎを4本平打ちとしたもの	1.96
	(ニ)	厚さ4.5cm以上で幅9cm以上の木材 厚さ2.3mm以上の鋼板添え板を、筋かいに対して径12mmのボルト締め及び長さ50mm、径4.5mmのスクリークぎ7本平打ち、柱及び横架材に対してそれぞれ長さ50mm、径4.5mmのスクリークぎ5本の平打ちとしたもの	2.94
○	(ホ)	厚さ9cm以上で幅9cm以上の木材 柱又は横架材に径12mmのボルトを用いた一面せん断接合としたもの	1.96

※「平成12年建設省告示1460号」及び「改正建築基準法の構造関係規定の技術的背景 平成13年3月30日 第1版第1刷発行(発行 株式会社ぎょうせい)」、「2001年度版 建築物の構造関係技術基準解説書 平成18年4月1日 第2版第3刷発行(発行 工学図書株式会社)」より